

ふたなりの誘惑に

清純だったはずのマッシュは

墮ちる

ちる

第4話

R-18

Adult Only

## 前話までのあらすじ

絵に描いたように生真面目で、性的なことに強い抵抗がある清純なマシュ。彼女は「男性は常にエッチなことを考えている汚らわしい生き物」という偏見を持ち、先輩にも厳しく接するほど男嫌いであった。

しかしある日、敵からの攻撃を受け、その影響で陰部に男性器が生えてしまった。

あれだけ嫌っていたはずの男性の象徴が、自身に生えてしまったことに驚きとショックを隠せないマシュ。

さらに初めて感じる、男性器の発する強い情欲に戸惑い、なんとか抗おうとするも、全く未知の強すぎる快感に翻弄され、あえなく射精してしまう。

忌み嫌っていたはずの男性の性欲と快楽をその身をもって思い知る屈辱。更に自らの性格とこれまでの行動が邪魔をして、股間に生えた異物のことを誰にも相談することができない。

しかし慣れない快感と興奮でなかなか寝付けなくなってしまったマシュは、ダヴィンチに相談し、「特殊な睡眠薬」を処方された。

その帰り、たまたま先輩と源頼光が性交におよぶ場面を覗き見てしまう。快楽を貪る二人と対照的に、男の強い性欲を我慢するしかない自身の惨めさに悔しさを滲ませるマシュ。

それでもなんとか日々男性器の発する快楽を無理やり理性で抑え込むうち、あろうことか「大切な仲間」であるはずの女性サーヴァントの肉体にも激しく興奮するようになってしまったことを自覚する。

もはや自身の「男の性欲」が制御できないほどに膨れ上がってしまったと、恐怖と危機感を覚えるマシュ。

このままでは大切な仲間に出しかねないと考え、自慰することでなんとか性欲を発散させ、この強すぎる汚らわしい劣情を鎮めようと試みる。

しかしいくら射精しても男の性欲が鎮まることはなかった。それどころか、さらに快楽を求め、次第に仲間ですらも襲いたいという黒い欲望が心を蝕むようになる。

そして睡眠薬の副作用を思い出し、決して及んではならない危険な発想に至る。

それだけはやってはならないと、残る理性で必死に危険な考えを振り払おうとするが、股間の怒張した異物の発する誘惑で、否が応でも薬の効果に期待してしまう。

既にマシュの理性は瓦解寸前であった。

その後偶然にも先輩が、今度はナイチンゲールと情事に及ぶ様子を目撃する。さらに頼光とも遭遇し、何食わぬ顔で語りかける頼光が、自身に内緒で先輩と体を重ねていたことを思い出し、激しい嫉妬にかられてしまう。

そしてその艶めかしい体を前に、ついにマシュの理性は崩壊する。

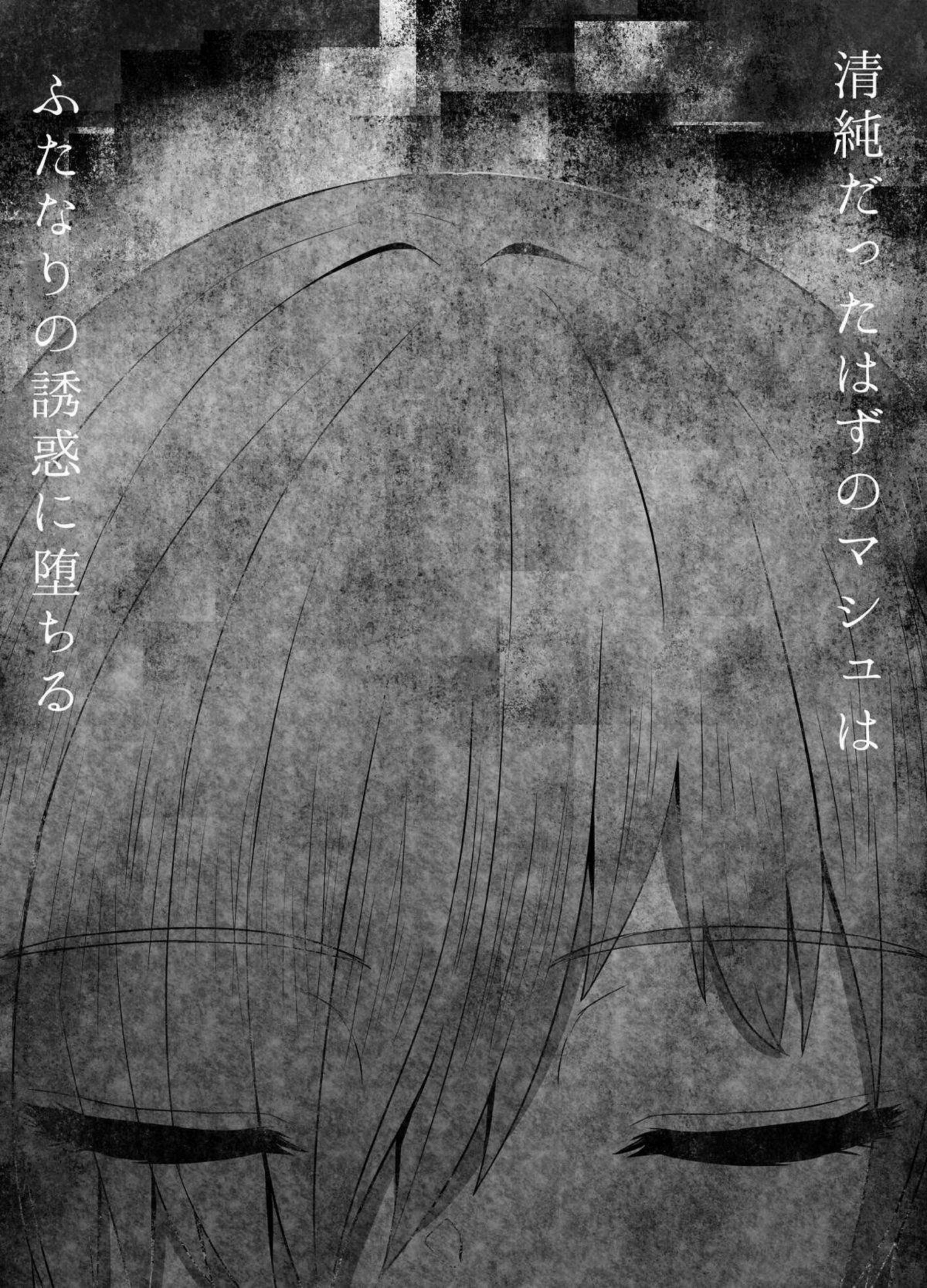
マシュの卑劣な誘いに騙され、薬によって深い眠りに落とされた頼光。

すべては先輩が、そして自身を誘惑する仲間のいやらしい身体が悪い。

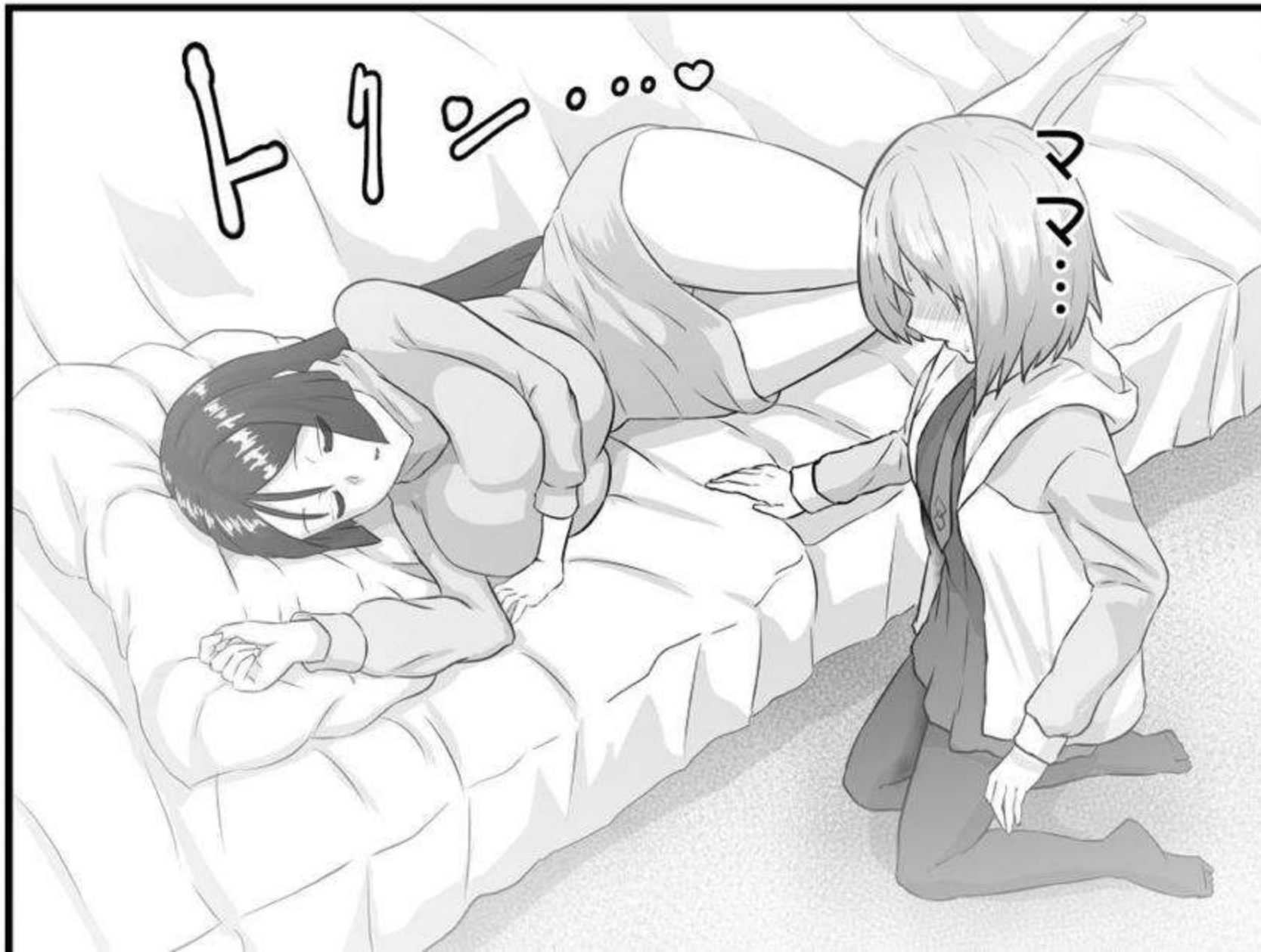
独善的な考えで、かつて自身が嫌っていたはずの「雄の性欲」を満たすことしか考えられなくなったマシュは、目の前で深く眠る頼光にいよいよ禁を犯そうとする…。

清純だったはずのマシユは

ふたなりの誘惑に堕ちる









は...

はあああああああ...

ぞくぞくぞくぞく



すいん...

ママ呼び興奮する...

キュン

心臓がキュンって切なくなっちゃいます...



本当の母親でもない女性にママって甘えてこれからHなことすると思うと...

背徳感が堪らない...!



頼光ママ...

起きて...起きてください...



ママ...?

起きて...

起きて...

起きて...



ママ...

ママ...!





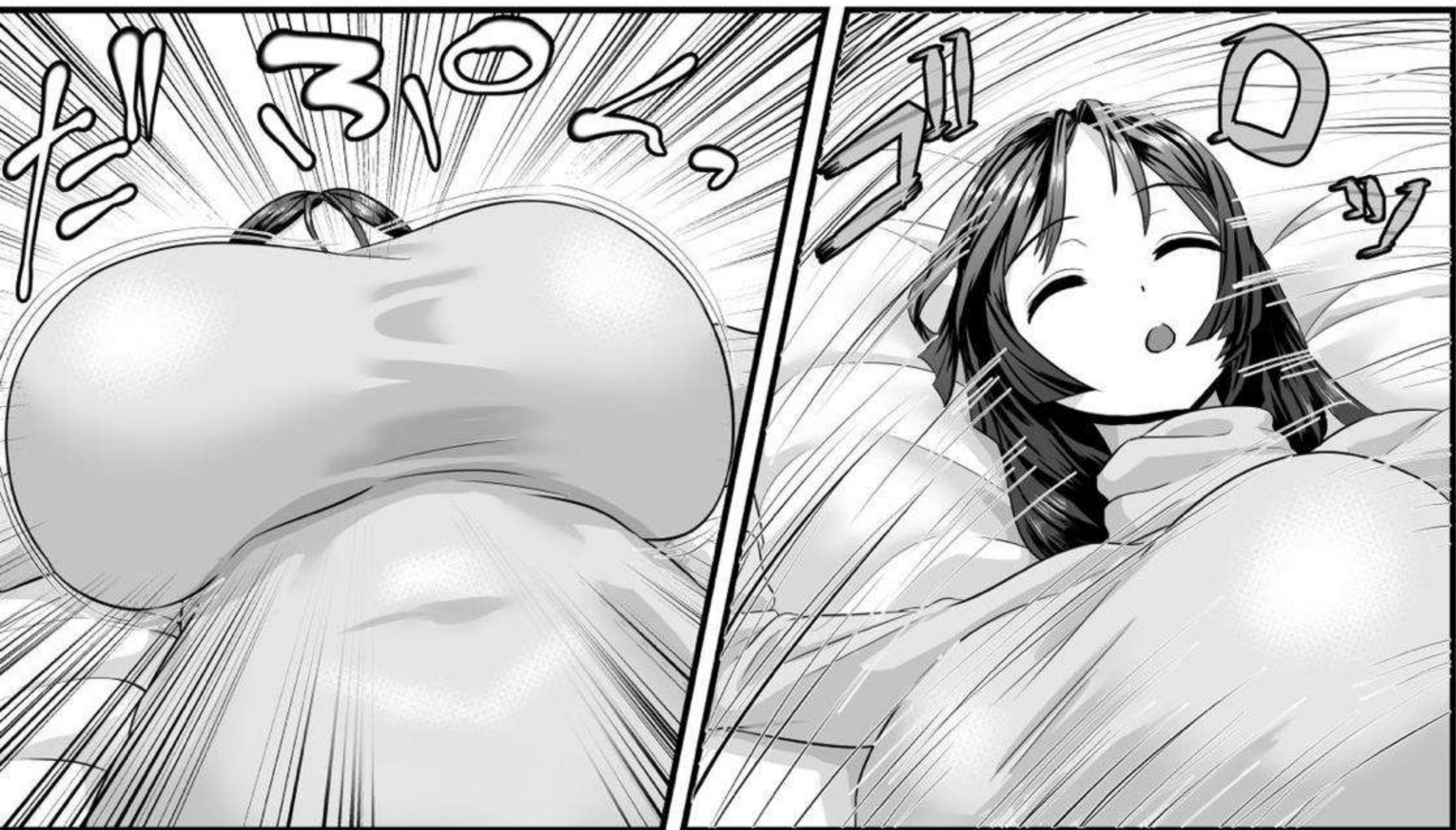
はっ早く……!

早くっ  
エッチしたいっ…



この時の私はもはや  
貞淑さも清純さの欠片もなく—

ただ目の前の雌をレイプすることしか  
考えていない気持ち悪い童貞だった—



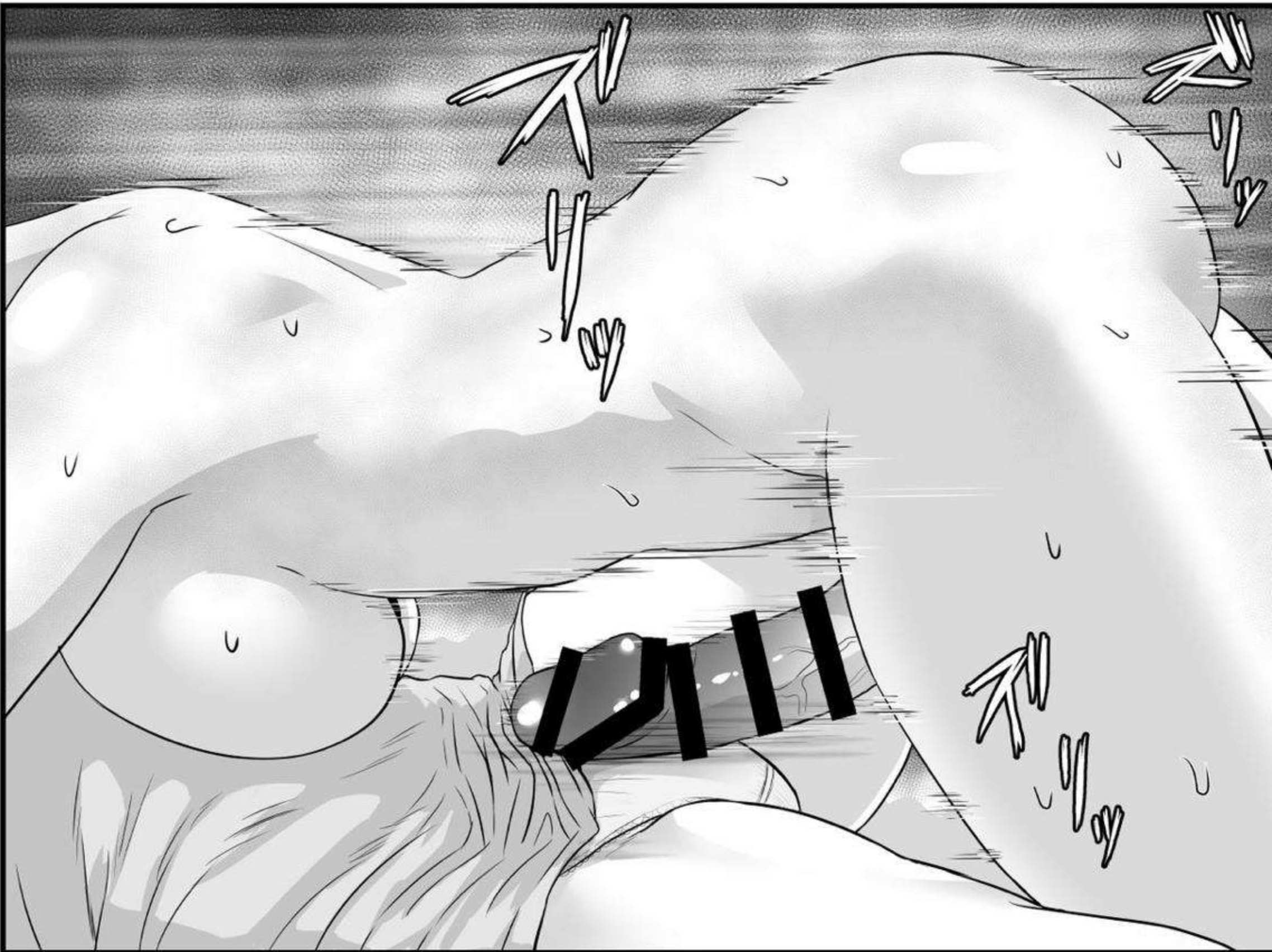
はっ

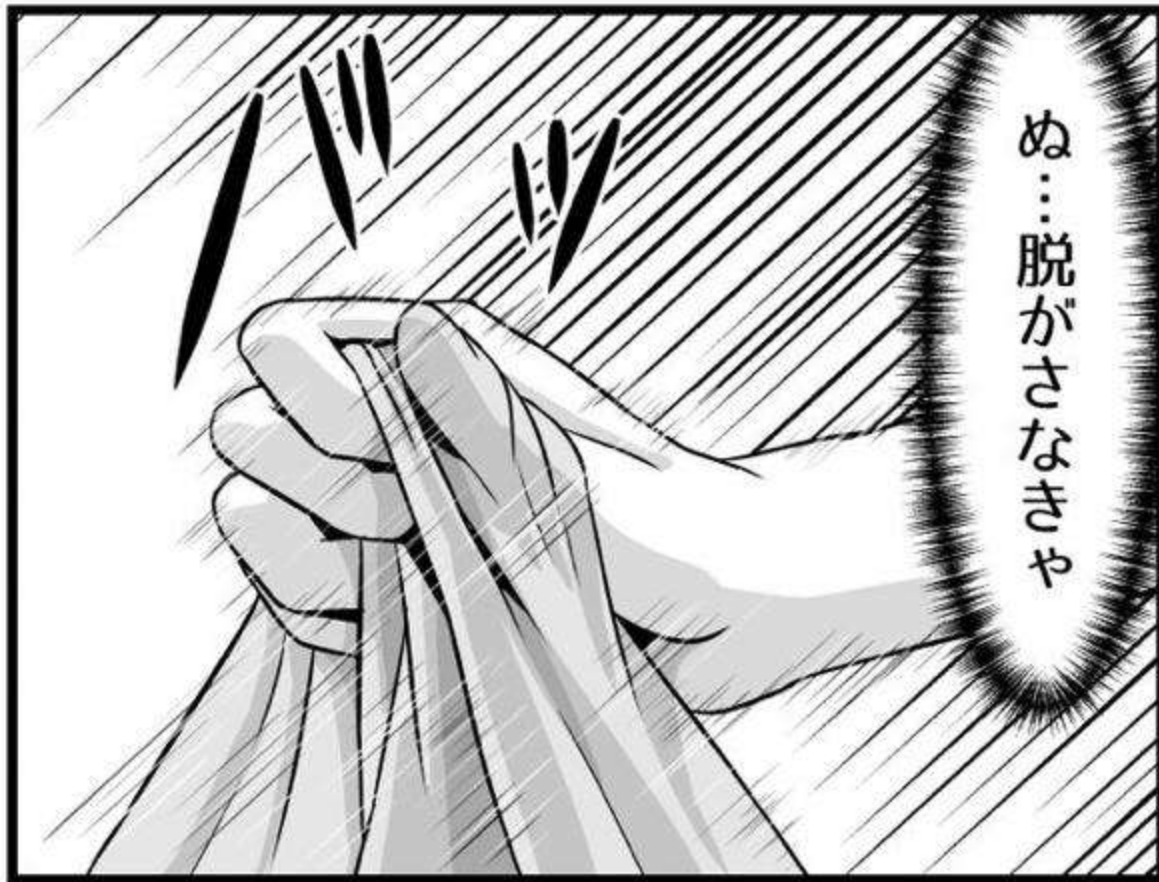
はっ

はっ

はっ









あ：  
頼光さんの…

おっぱい…  
乳首…

す：  
吸い寄せられる…

ああく…  
癒される…

とても  
安心します…

おっぱい  
良い匂い…

頼光ママの母性に  
優しく包まれます…

これだけのことをしても  
全く起きる気配がない…

あの薬の効果すごい…  
ダウインちゃんのこと  
言った通りです…



もう他のことなんてどうだっていい…

今はおちんちん気持ちよくすることしか考えられない…!!



いける…

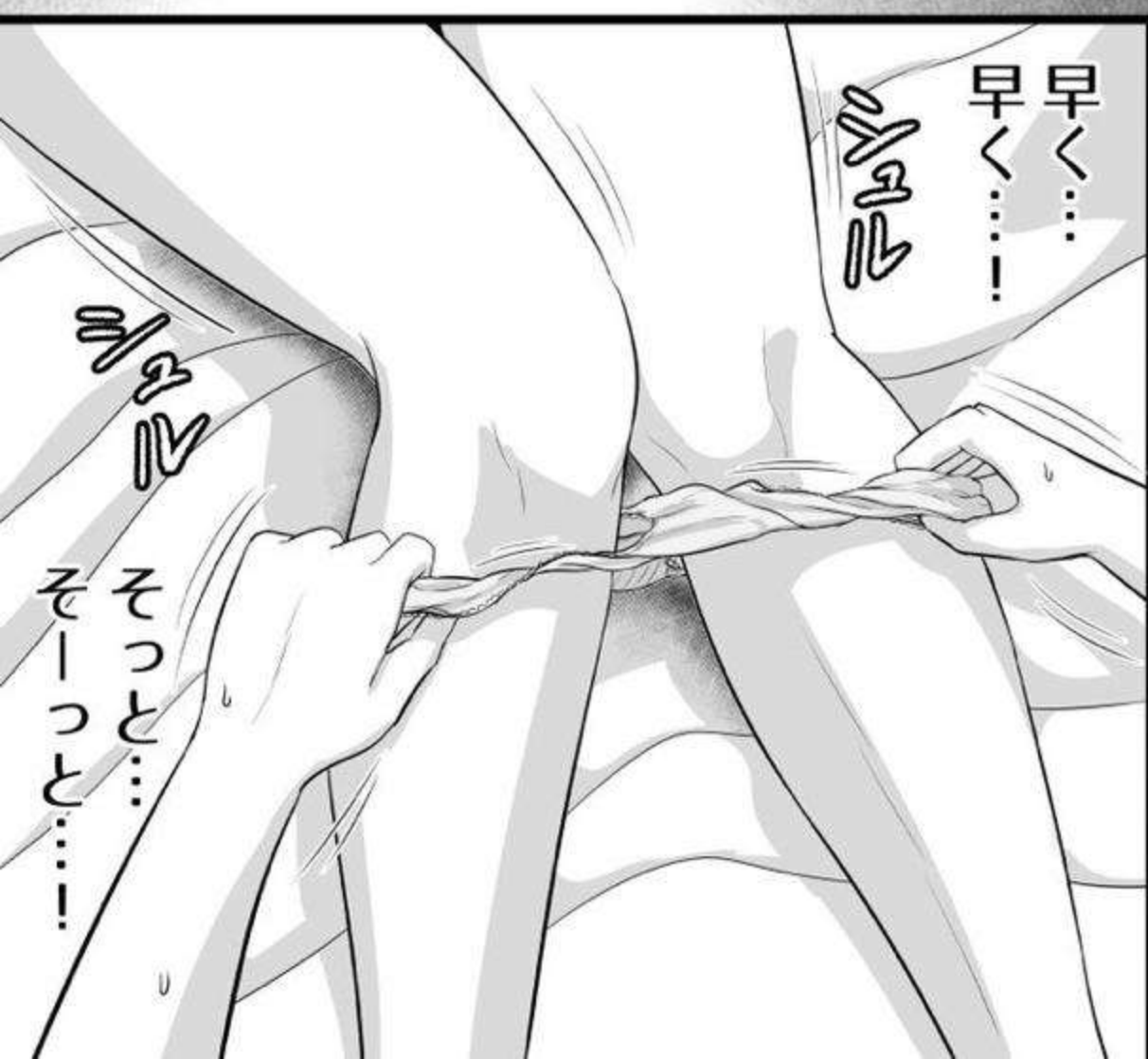
本当に私…  
童貞捨てられるんですね…



こっ…  
このパンティーの中に… フーッ  
頼光ママの…

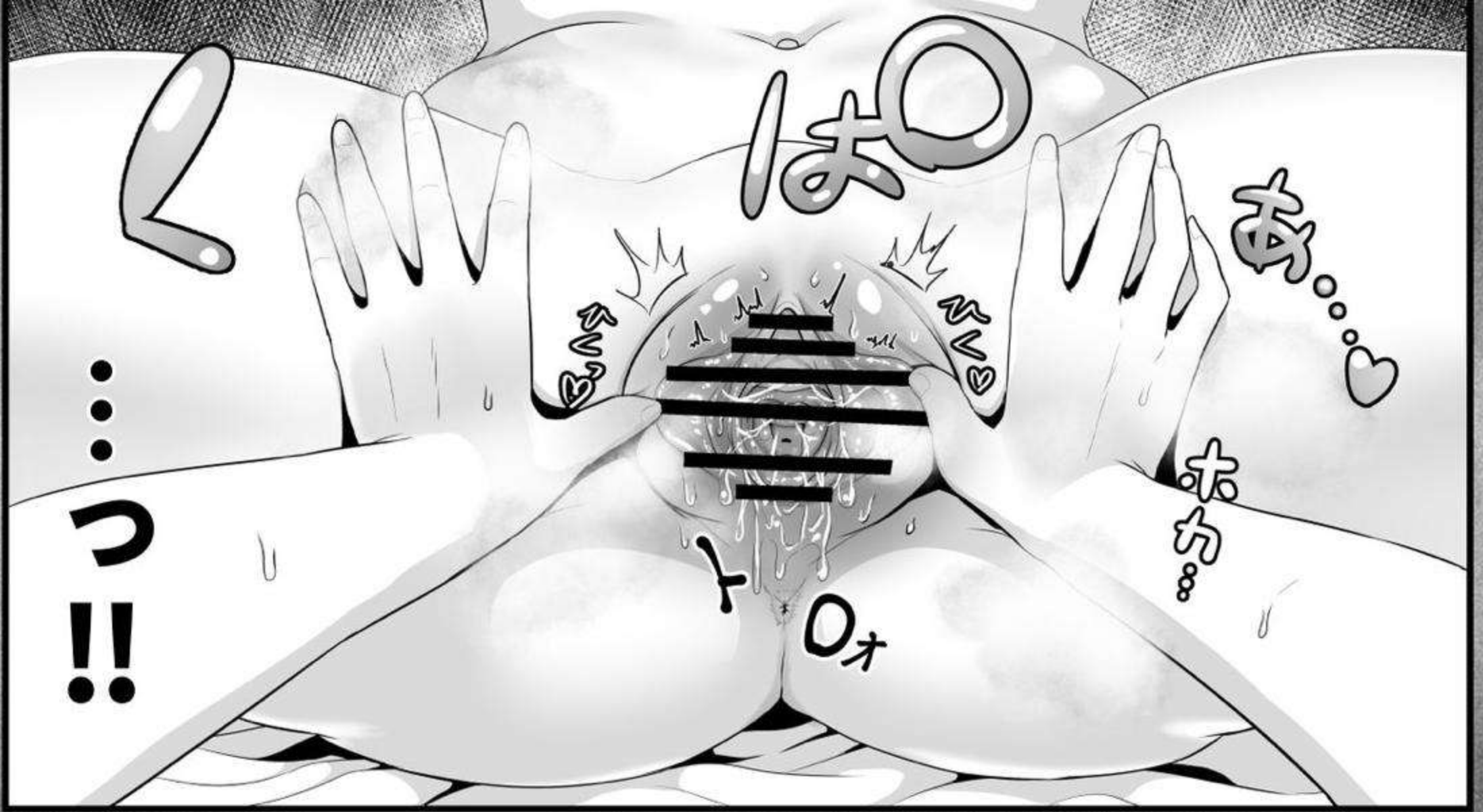
お…  
おまんこ…  
おまんこ… フーッ

おまんこが…!!



早く…  
早く…!

そっ…  
そっ…  
そっ…







ああ…すごい  
ビチヨビチヨ…

ムフ…

寝ても身体は  
こんな感じてる…

あの薬の副作用で…  
それとも…?

キキ  
キキ  
キキ



どろろろろ



これが頼光ママの味…

ちよっとしよっぱぐて苦い…

ちよっぱぐて♡

とても下キ下キする…

もっと…もっと味わっていたい…



これだけ濡れてれば大丈夫…

う…う…う…

頼光ママの…  
おまんこに…

ゼクッ

ゼクッ

ゼクッ

ちゅ…

私のおちんちん…

入れる…

頼光ママの中に…

還る…ッ



緊張しすぎて呼吸が苦しい…  
頭がぼーっとする…  
ダメ…

おまんこにおちんちん  
入れることしか考えられない  
いけない…!

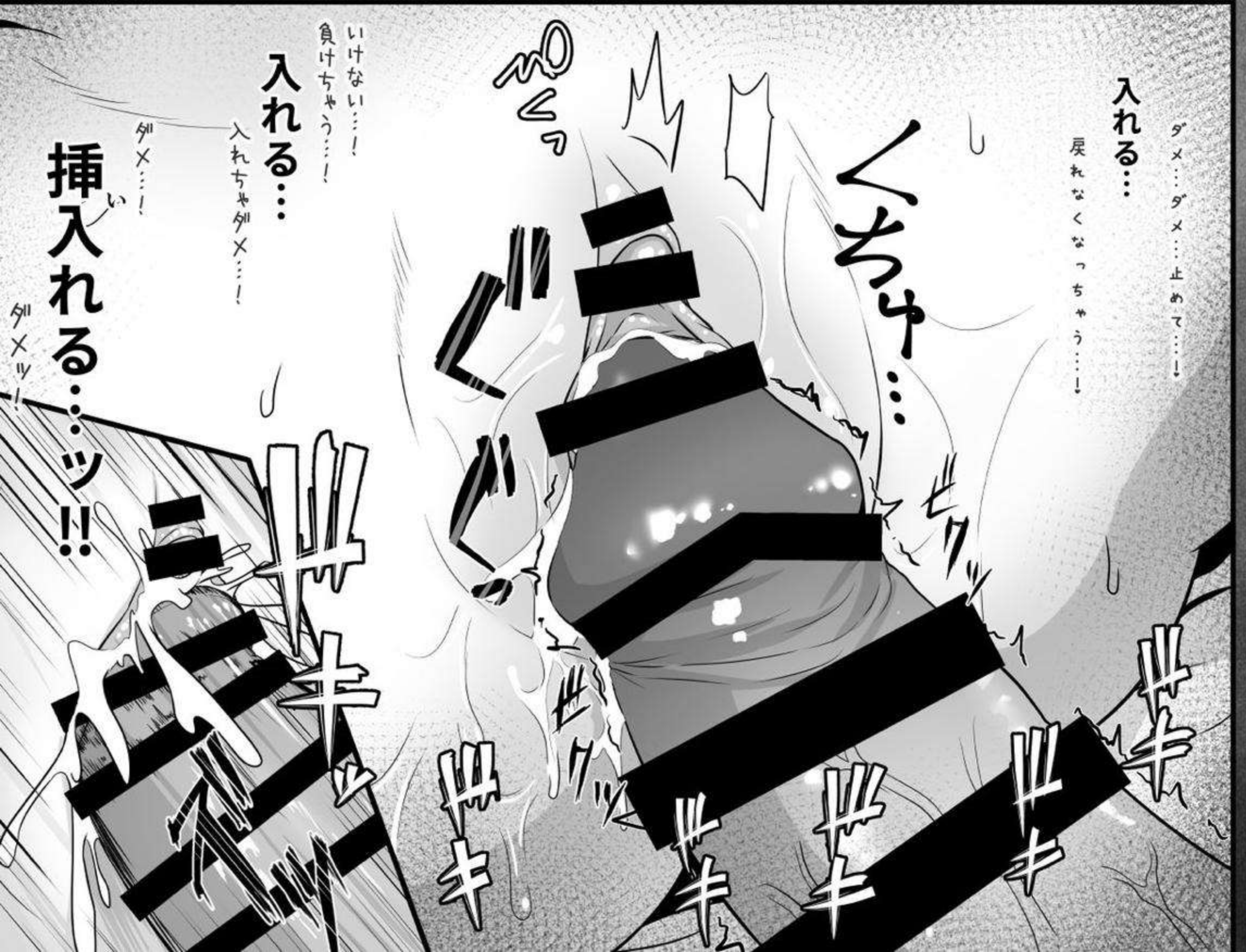
もう男だとか女だとか  
全部どうだっていい  
正気に戻って私…!

欲望に負けちゃダメ…!  
頼光ママを犯すんだ…!

それ以上はもう…

取り返しがつかなくなっちゃう…!  
私の男の子の部分…  
頼光ママのおまんこ…

はっ  
はっ  
はっ  
はっ  
はっ  
はっ



ダメ…ダメ…止めて…!  
入れる…  
戻れなくなっちゃう…!

ぐちゃぐちゃ…

いけない…!  
負けちゃう…!  
入れる…

入れちゃう…!

挿入れる…!!

ダメ…!

ダメ…!

ぐちゃぐちゃ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ





はい 挿入っ... たッ...!!

あッ!!

カ  
X  
え  
ま  
う

あッ!!

あッ!!

あッ!!

あッ!!

あッ!!



あッ!!

あッ!!

あッ!!

あッ!!

あッ!!



おっ!?

おっ!? おっ!? おっ!?

おっ!? おっ!? おっ!?

おっ!? おっ!? おっ!?

A

おっ!?

おっ!?

おっ!?

おっ!?



あっ...♡

ブルッ

はっ♡

ブルッ

あっあっ♡

ハッ

ハッ

あっ♡  
はっ♡



待ってっ...

待って待って待ってえッ

ダメ...ダメダメえッ

エッ

エッ



あっ♡  
...♡

ブルッ

ブルッ

あっ♡  
はっ♡

止まんないっ♡

…50…

イツちやつた…!!

入れただけで…  
暴発…

おまんこ  
これが男の子の感じる  
女の子の感触…!!

す…凄すぎる…!!  
おまんこ凄すぎますよお…!!



寝てるはすなのに  
膣壁が脈動して…っ

おちんちん全体を  
暴力的に刺激して  
甘やかしてくる…っ!!

罪悪感が背徳感に変わって…

心に穴が空いたような切なくなる…

この射精の感覚…

私の中の力が…エネルギーが…  
大切な何か…

全部…吐き捨てられて  
いくかのよう…

とても大事なものを  
失ってしまったような…

でも…この喪失感と背徳感…  
イケナイことしてるみたいで  
とってもドキドキする…



おほおおっ♡

射精…長ッ…  
止まら…ない…ッ

私のおまんこまで  
射精に同調して…

体全体が痙攣して…っ  
少しも…動けないっ…!!

ホッホッ

刺激が…強すぎて…  
呼吸が…苦し…っ

はっ

はっ

息が…整わ…な…

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

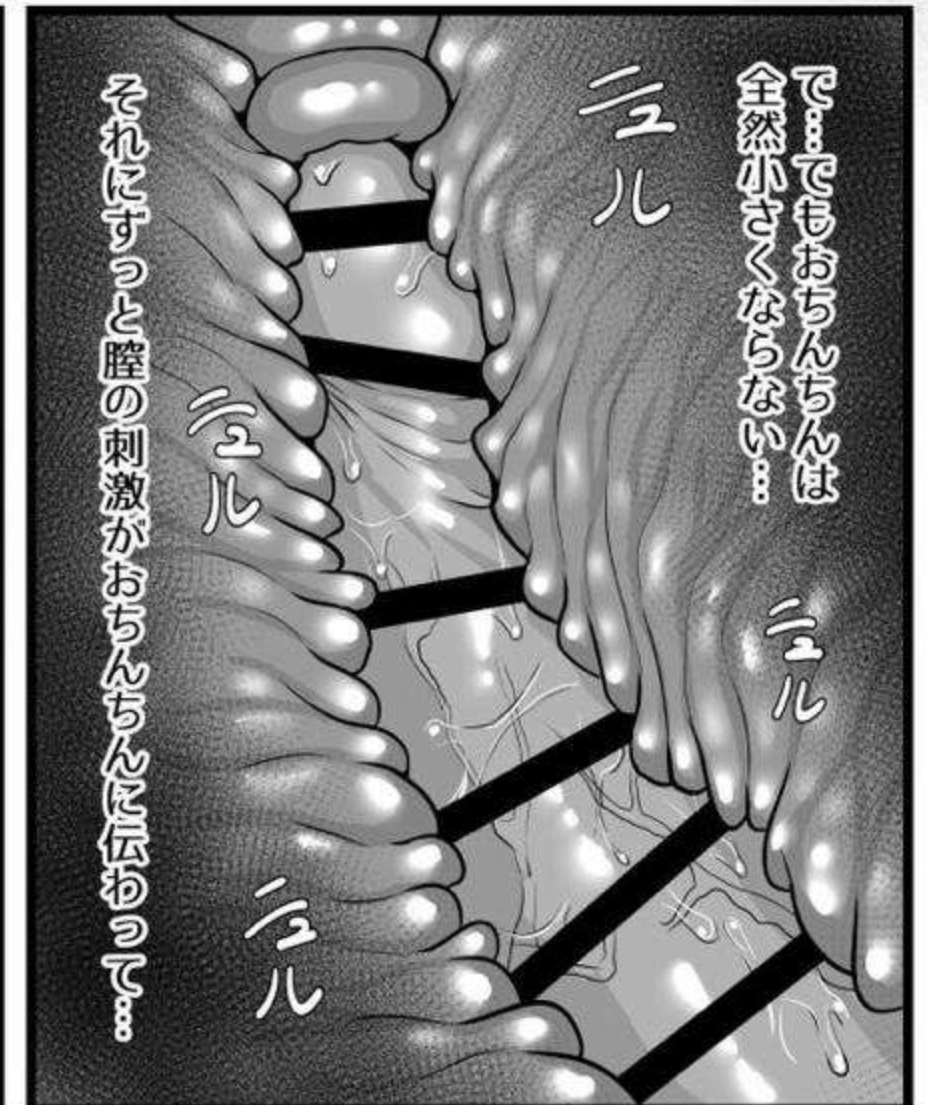
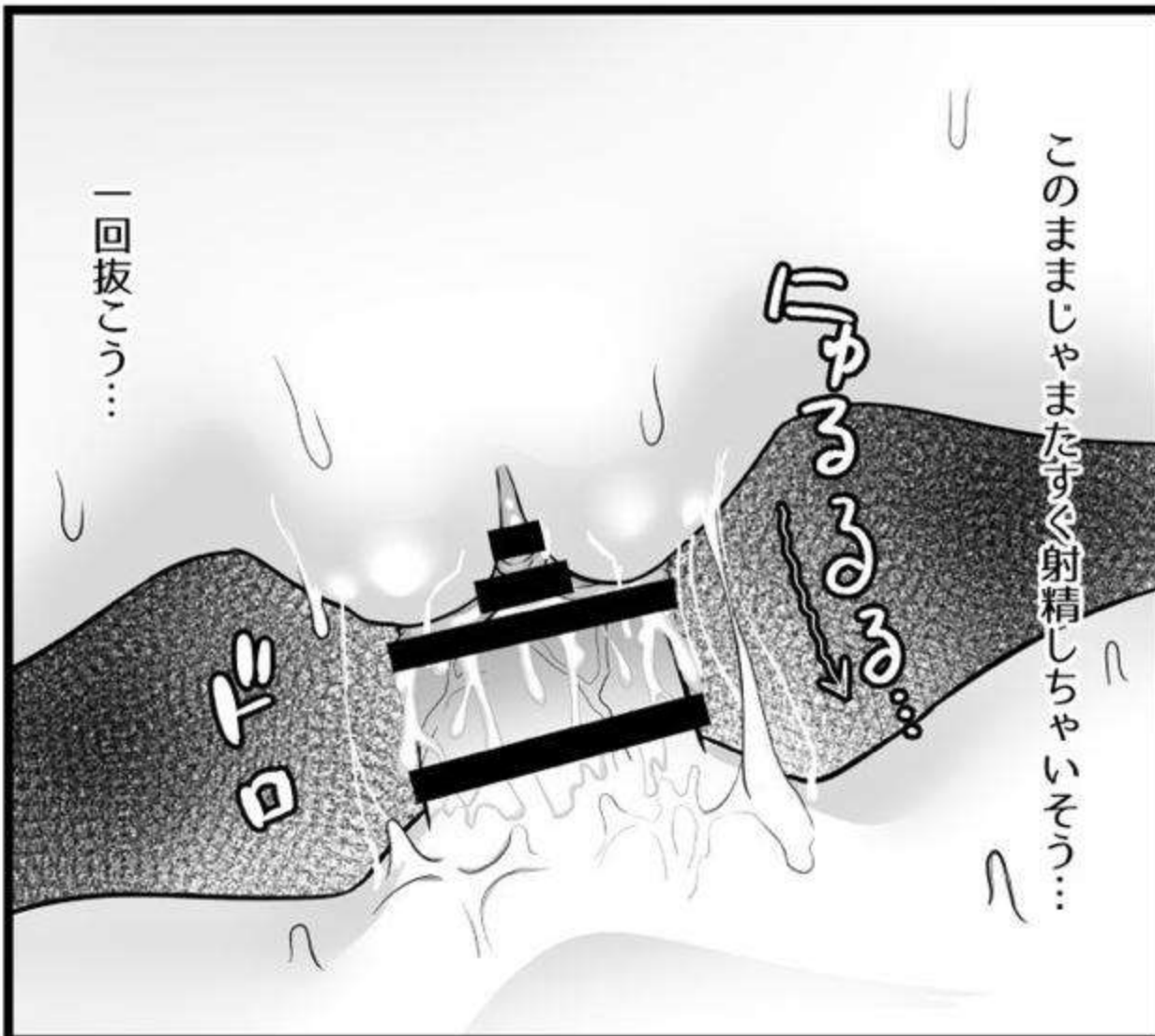
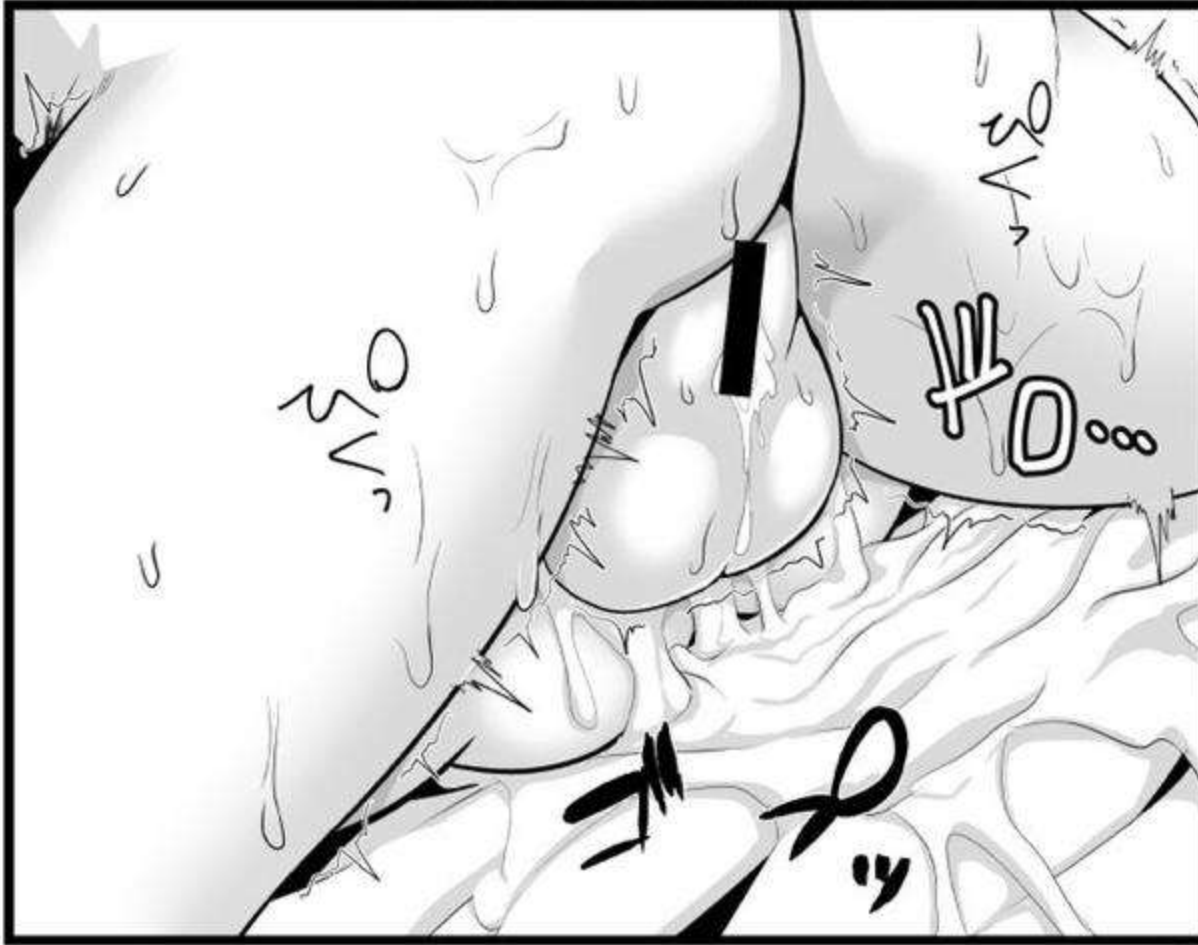
はっ

い…意識が…

快感に持ってかれ…

…るっ…

はっ





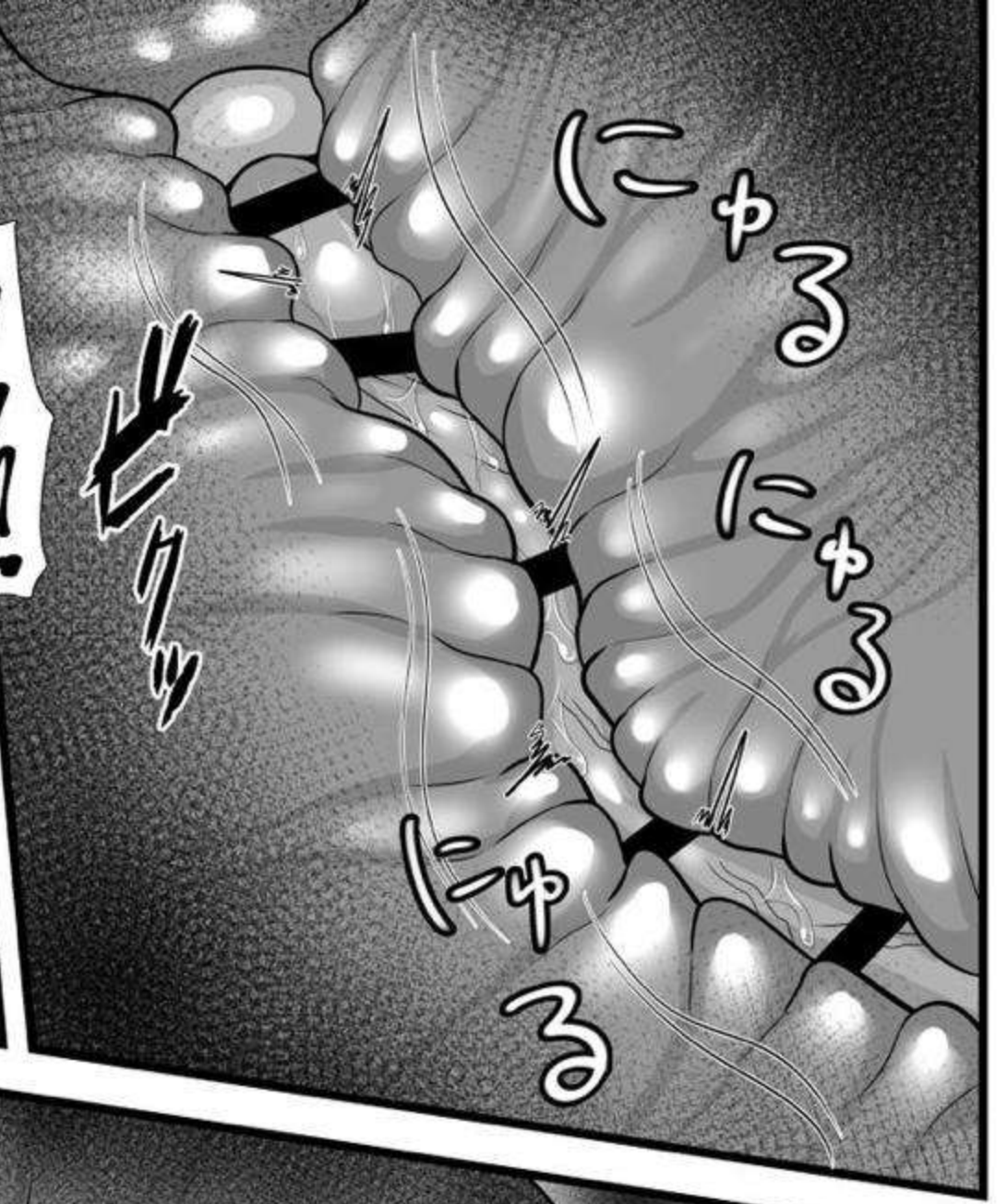




ま...また...

あ...あ...

あ...!!



にゅるにゅるにゅるにゅる

ぐわんぐわん



精子欲しいって  
おちんちんに  
おねだりしてるっ♡

にゅる

にゅる

キュン♡

にゅるるる

ぐわんぐわん

キュン♡

中が...  
おまんこがうねって...



ま...また...

あ...あ...



あ...♡  
精子上ってきたっ

ま...また...

あ...♡

あ...♡



これだけHしたのに  
全然起きる心配がない…  
薬の効果すごい…

すごく優しそうな表情で寝てる…

本当のお母さんみたいに…  
いくらでも甘やかしてくれそうな  
暖かさとお母性を感じます…

でも体はとんでもないことになっちゃってる…

とってもエッチな体…

男を誘惑するために存在してるような…  
そんな体を私は犯しちゃったんですね…

私の一方的なエッチで  
えげつなくドスケベなことになって…  
優しい顔と対照的にすごくいやらしい…

このギャップ…この状況…  
ますます興奮しちゃう…

おまんこがもっとと精液を欲しがって…

おちんちんを優しく解きほくすように  
甘い刺激をすつと与えてくれる…

まるで赤ん坊を  
あやすみたい…

無意識でも私の全部をその母性で  
包み込んでくれてるんですね…

時間はまだたっぷりある…  
今のうちにもっと楽しまなきゃ…

そう…  
これはおちんちんを鎮めるため  
仕方ないことなんだから…

ツクン

ムタン

〇〇

ツクン

さっきから頼光さんのおまんこも  
私の精液を欲しがってる

ムタン

だからこれは  
頼光さんのためでもあるんですよ

いっぱい甘えさせて  
くださいね

ツクン

ママ  
お母さん…





もっしゅ……

もっしゅ……

だ  
もっと射精したい……!!

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん



ああ、柔らかか……

気持ちいい……!!

おっかしいおっぱいでパイズリ……!!

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

もはや私に清純さなんて残っていないかった

おっほおっほ♡

むにゅむにゅおっほい  
ヤバすぎ...

あうっ♡

精子ーみあげてきたっ

でっ出ちやう  
トちやうっ!!

私の理性はオスの快楽によって  
完全に破壊されたのだ——



デカ尻ツ

ママのだらしない  
デカケツっ

すごい迫カッ

ユサッ

ユサッ

エッチすぎギョるうううううううう

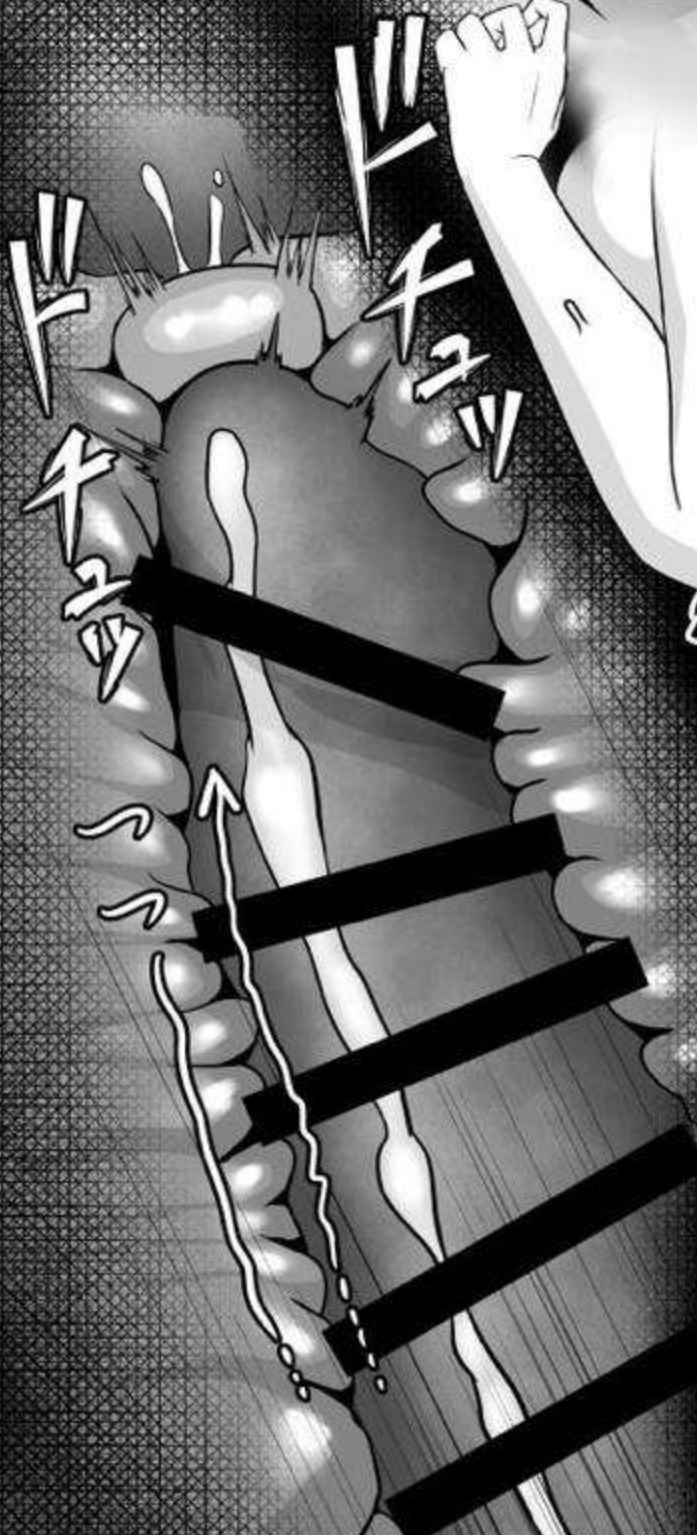
ほちゅ

ほちゅ

ほちゅ

ほちゅ

ほちゅ





おしり

おしり

おしり

ああ...ダメ...

この快楽に  
どんどん落ちていく...

男の子って...  
おちんちんって...

最っ高ッ...!!

はー

はー

はー

おしり

おしり

おしり

おしり

おしり

おしり





おくちっ

頼光ママの  
お口まんごっ♡

オナホみたい  
に乱暴に  
使っちゃうっ



射精するっ

ママを汚すッ!

無意識お口まんこの中



いくっ♡  
いくっ♡

無意識お口まんこの中



NewNewNew

はあ…はあ…



ゴウゴウ…

さっきまで履いてた  
ママのパンツ…♡

ああ…おまんこの香り…  
興奮しちゃう…

ス…ハ



こんな変態なこと…ダメなのに…  
止められない…!!

イゲナイことなのに…  
悪いことなのに…



ダメになるっ!

バカになっちゃうっ!

すればするほど興奮しちゃう…



もっと堕ちたいッ!!

まだ…  
まだ犯りたい…!!



頼光さんの…  
頼光ママの…!!

私を優しく包み込んで  
癒してくれるおっぱい…



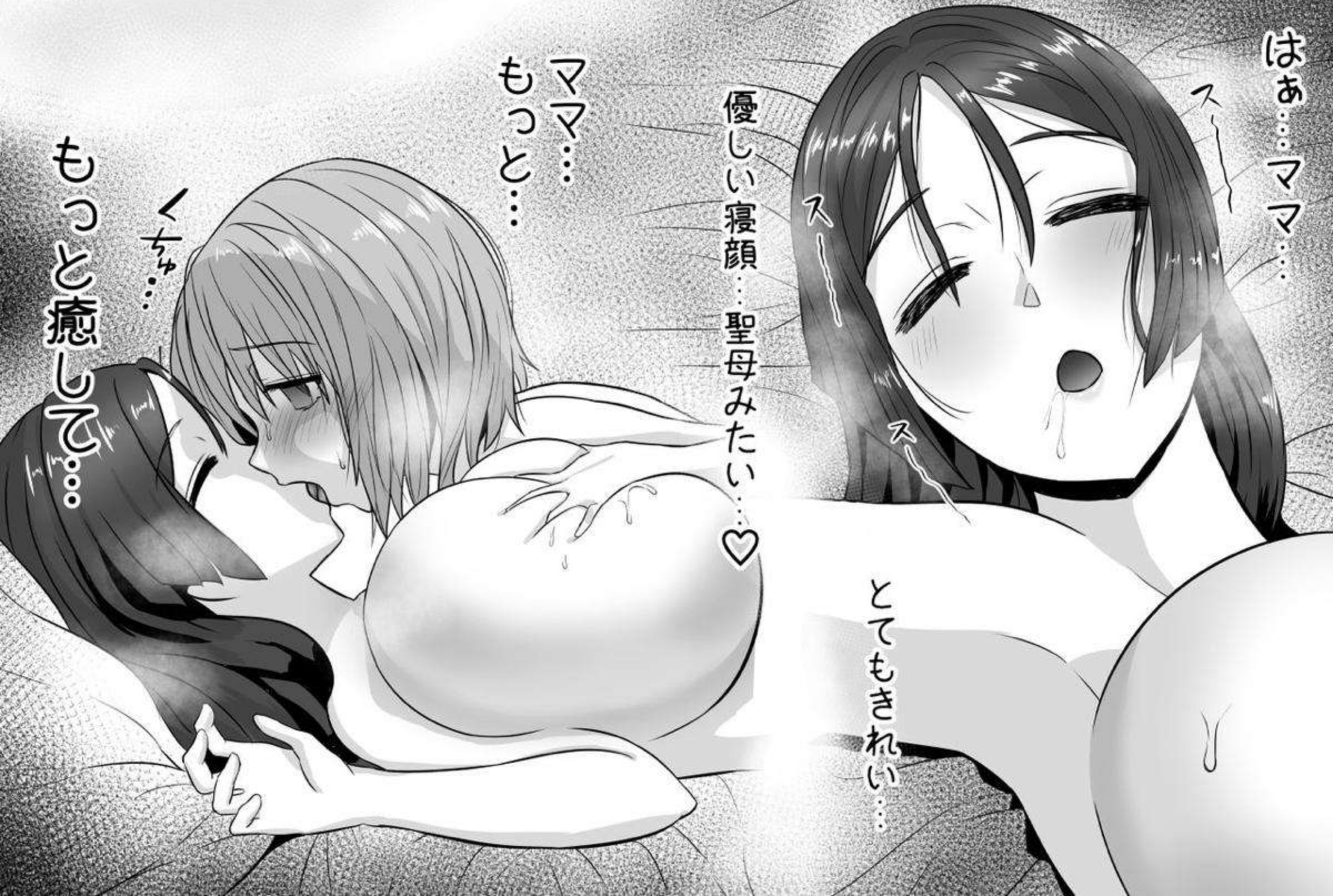
もっと甘えたい…♡



ママ…!!



おっぱい…♡



ママ...  
もっとう...

優しい寝顔...聖母みたい...♡

はあ...ママ...

とてもきれい...

もっとう癒して...♡

はあ...





花はあはれ♡♡♡

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

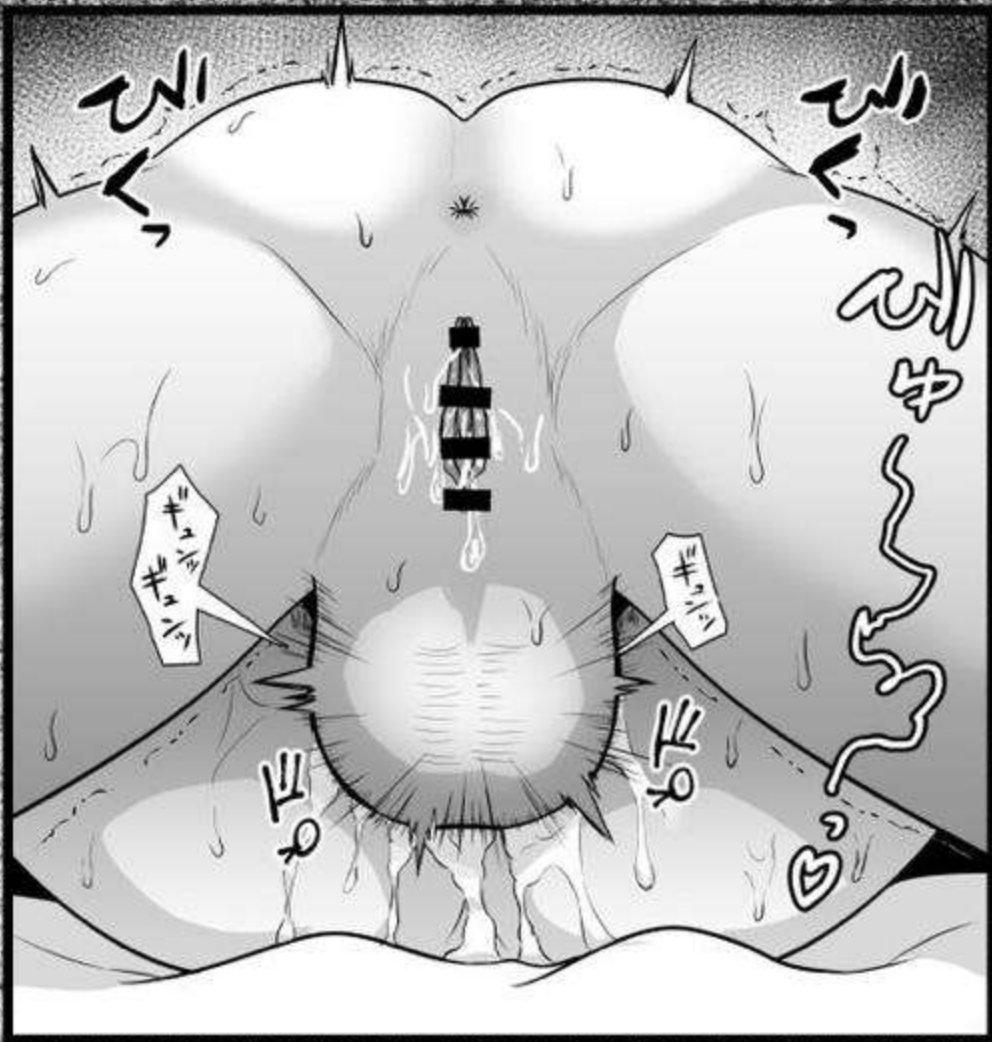
んんん

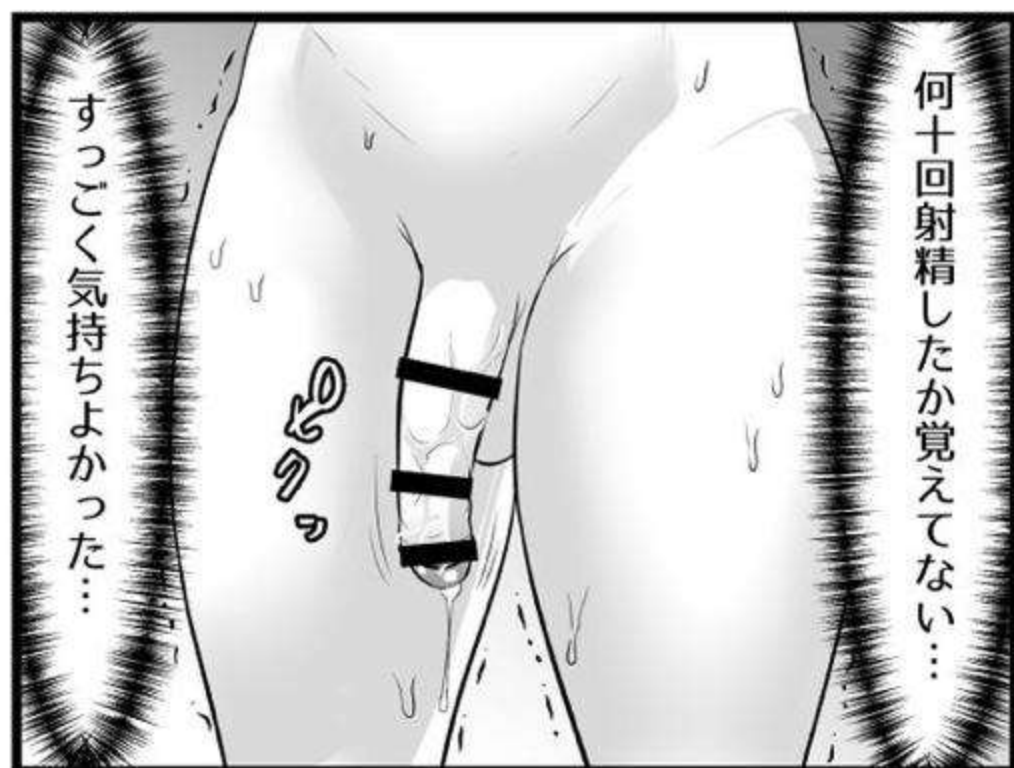
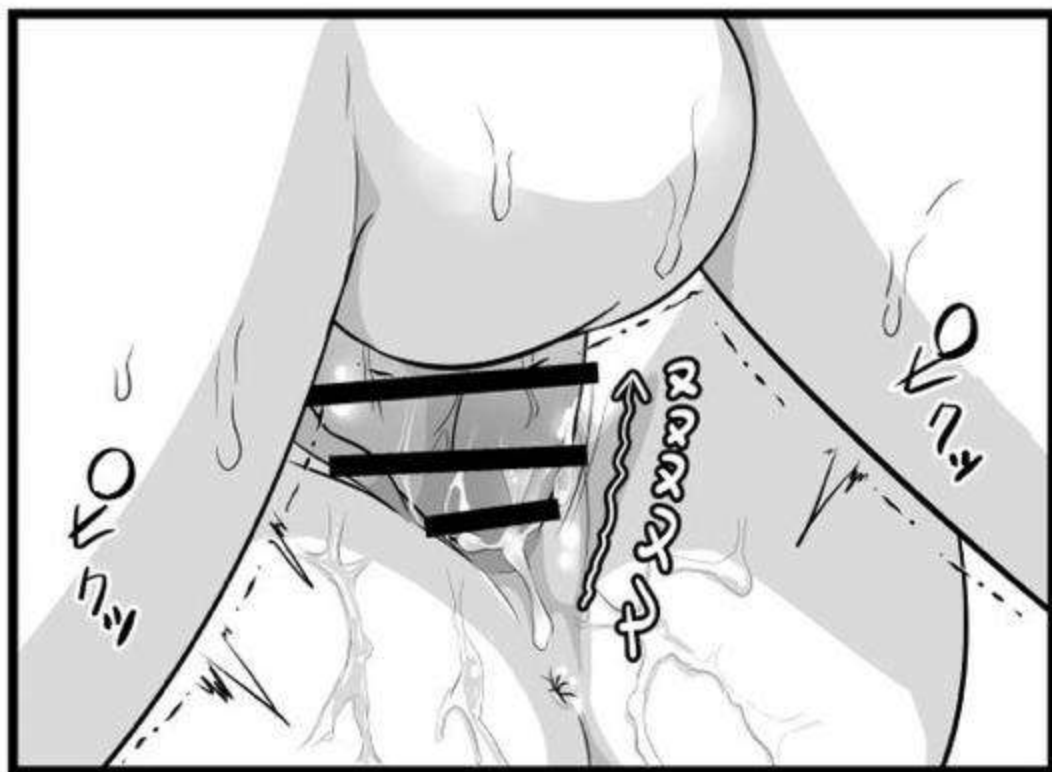
んんん

んんん

んんん

んんん









おちんちんが…  
しぼんでいく…!!

えっ!!?

あゝ

あゝ

あゝ



あ…あれ?

はあ

はあ

はあ

はあ

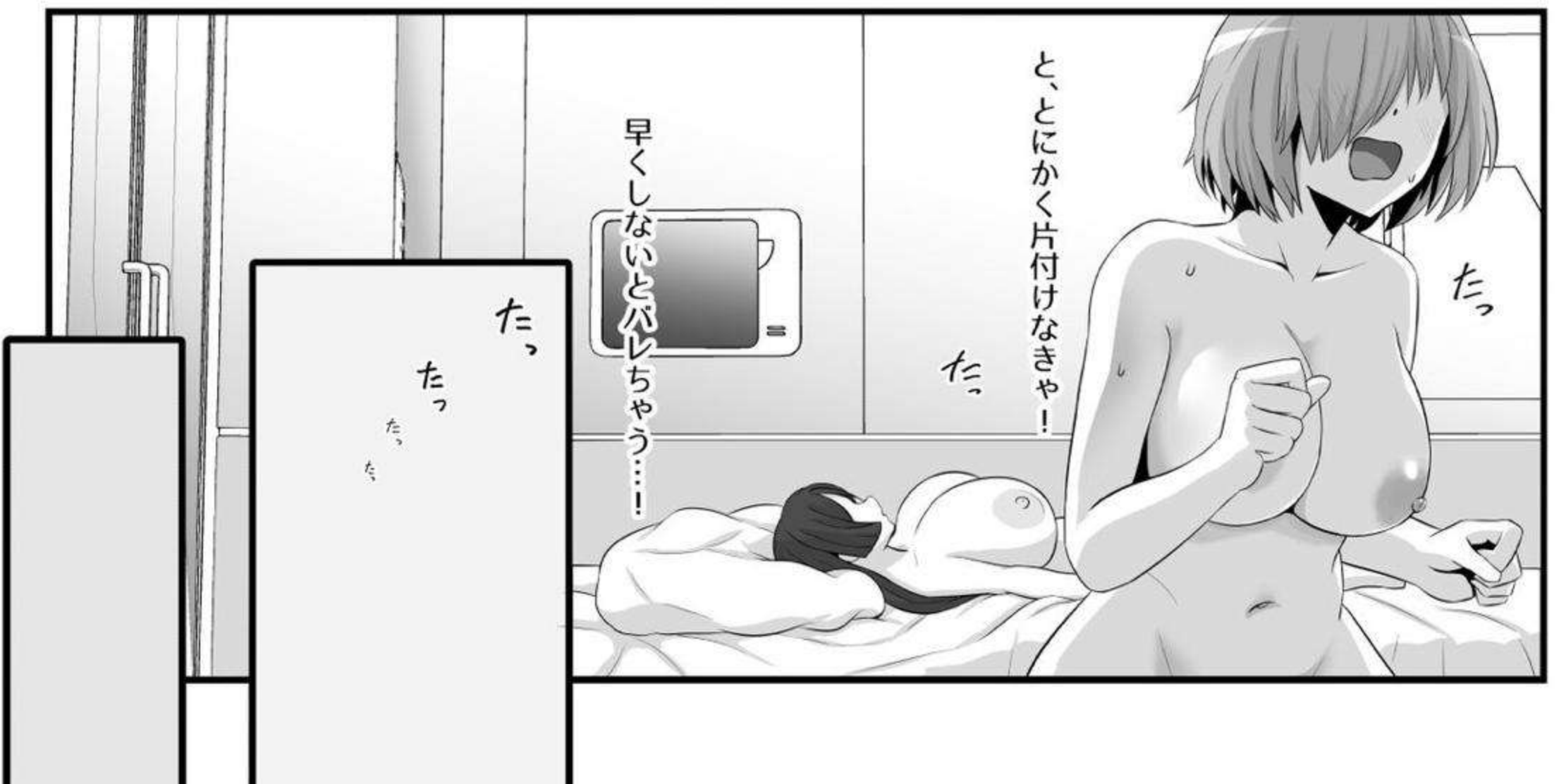
何か…変な感じが…



な…なくなつた!  
おちんちんが…!!

元に戻つた…!!

あゝ





—その後…

目が覚めた頼光さんは寝すぎてしまったことを私に詫びてくれたが—

「バレしな〜…」

「リラックスできて魔力もあふれてきた気がする」ということで次も誘ってみた

頼光さんは喜んで「ぜひ次も呼んでほしい」と言ってくれた

今回私がしたことは何も気づかれていないようだ—



心の中にぽっかり穴が空いたような



はあ—

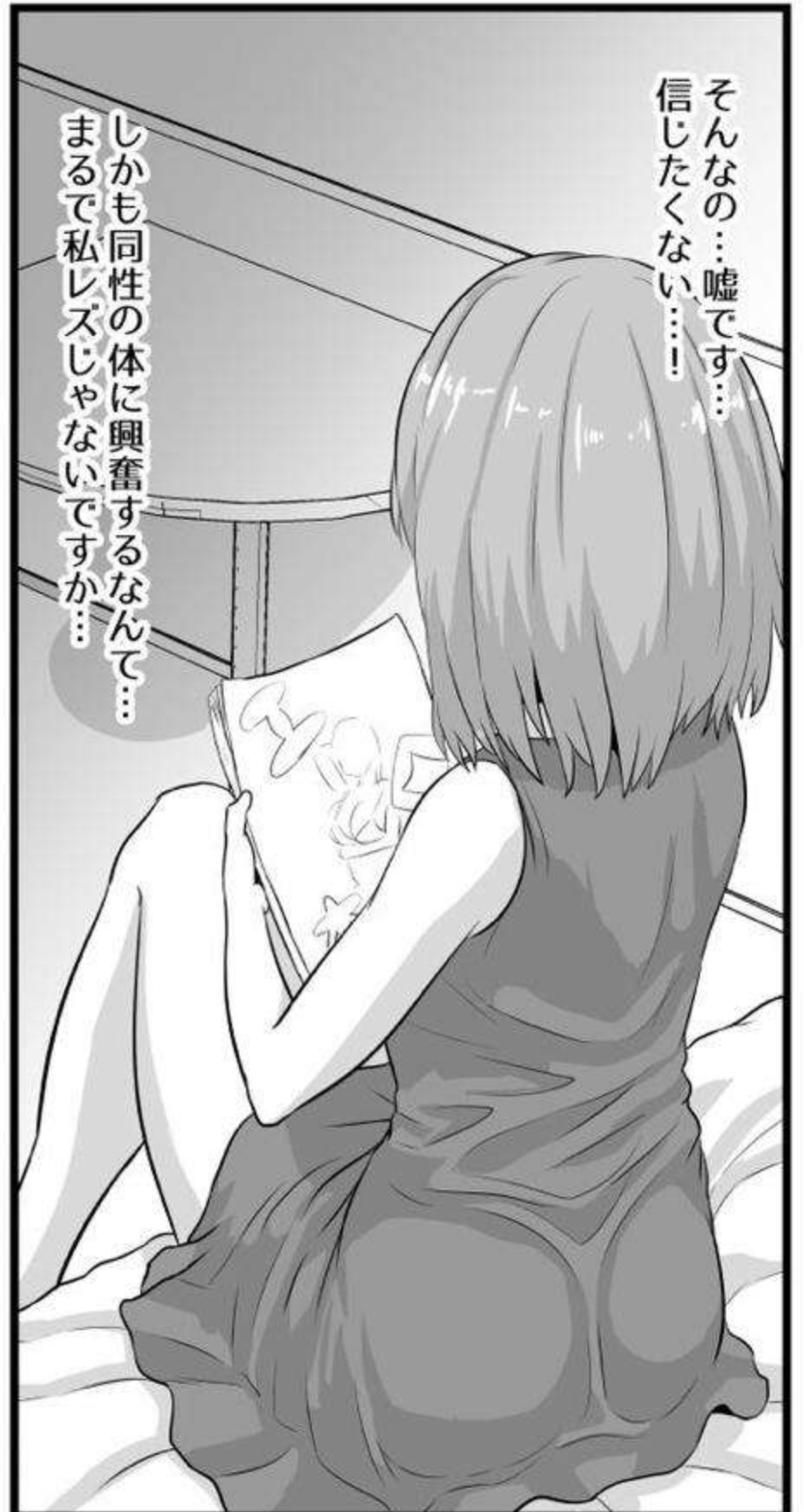
ようやくここ数日のモヤモヤから解放されました—

やっとこれまでの平穏を取り戻せる—

でも…なんでしょう…



ハクニ…





痺れるような快感が  
クリトリスから全身に走って…

あゝ…

ツ…な…!

何…!?  
今の感覚…

ずくん…

トロキ

ずくん…

ぞくぞく

くちゅ

んへん



とゆうことは…?  
もしかしたら…

ひよっとしてこのまま  
アソコに刺激を与えたら…

またおちんちん生えてしまったり  
するのは…?

ずくん

ずくん

ずくん

ずくん



…いや…  
私今の知ってる…

この疼き…覚えがある…

確かおちんちんが生えた  
あの時の感覚と同じ…

しゅ

しゅ

しゅ





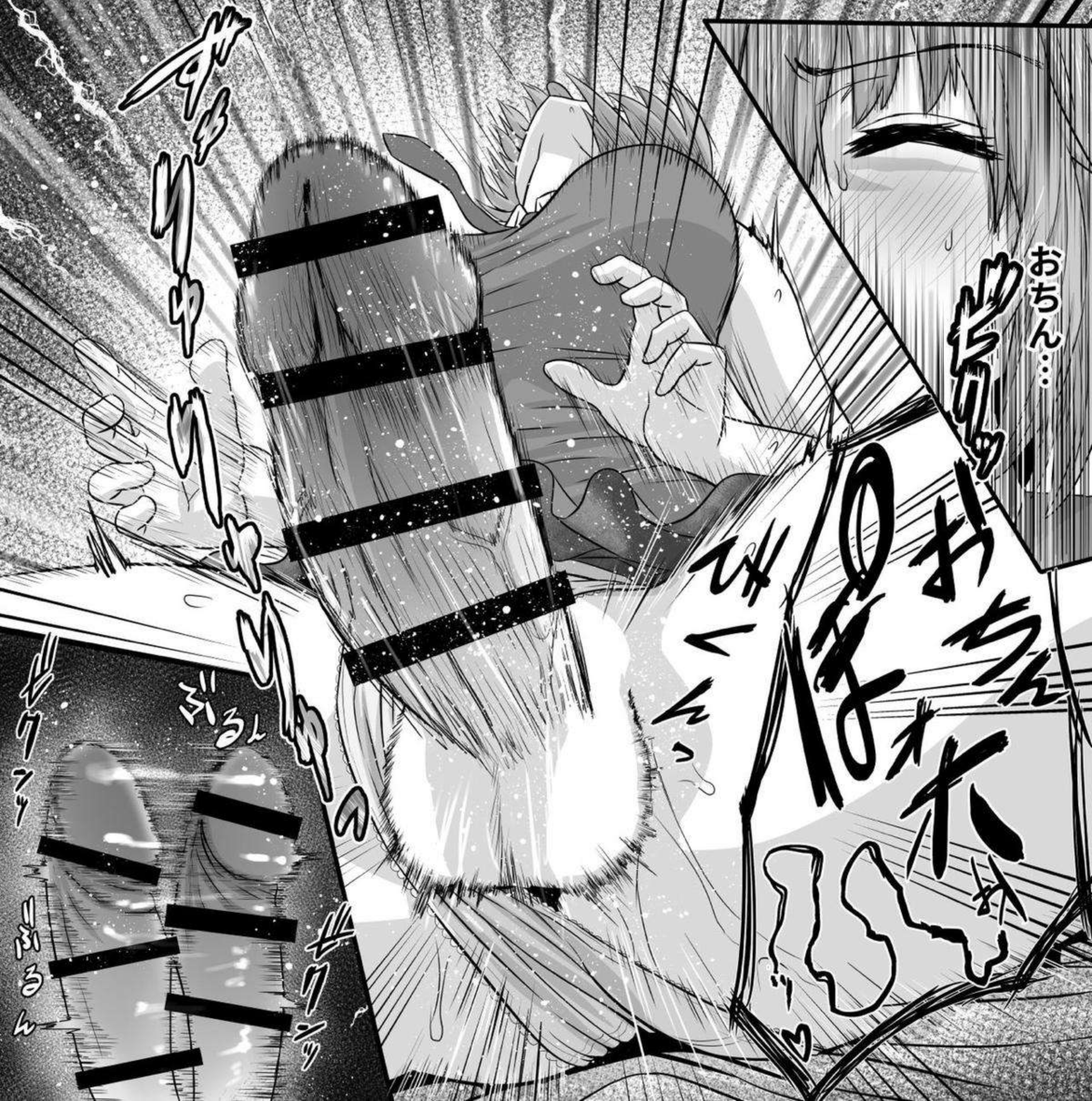
ああ...  
おちんちん...



おちんちん...!!  
おちんちん...!!



私の...私だけの...



おちんちん...

くちくち  
おちんちん  
くちくち  
おちんちん  
くちくち  
おちんちん

くちくち  
おちんちん  
くちくち  
おちんちん  
くちくち  
おちんちん



この快感...  
この疼き...



ほんとに...  
生えちゃった...

おちんちんが...



こ...どうすればまた  
おちんちん生やせるんですね...

そして女の子とたくさんエッチしたら  
消すこともできる...

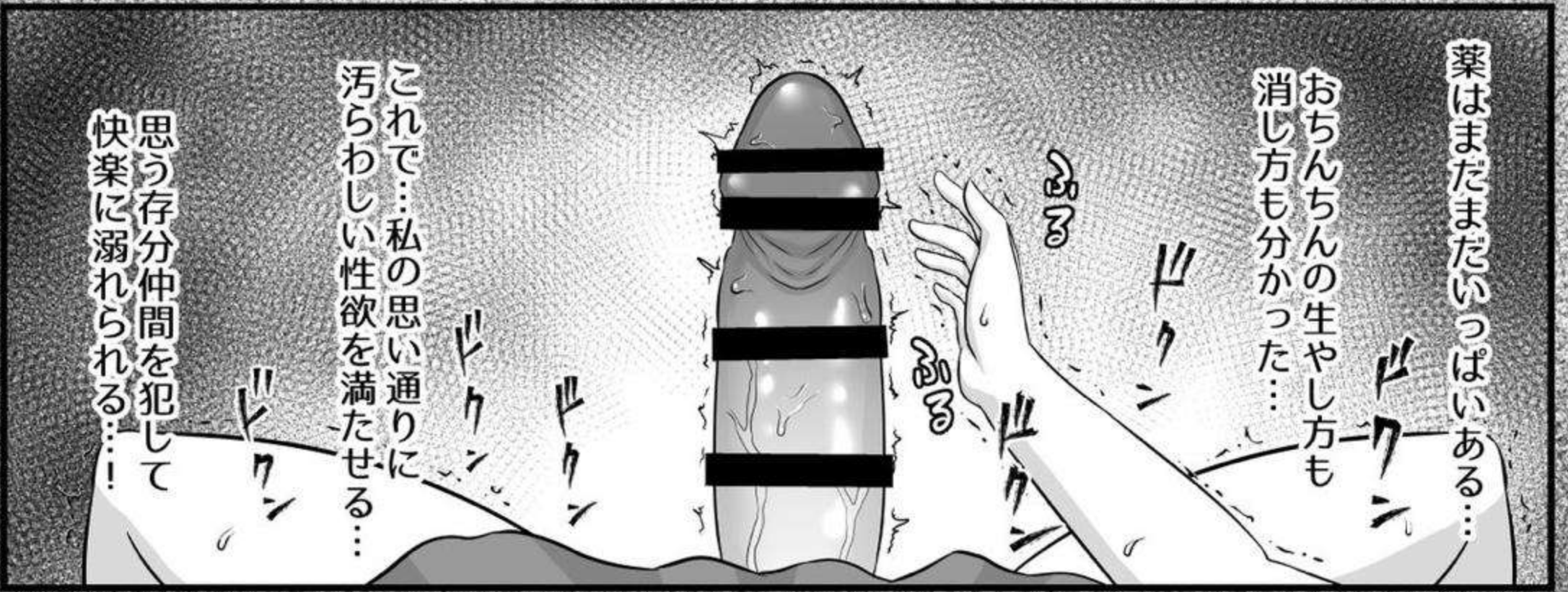
おちんちんを想ってオナニーして...  
クりに刺激を与えれば...いつでも...

私の中に汚らわしい男の性欲が残ったせいで  
女の体に興奮しちゃうから...

これからは好きな時に  
おちんちん生やして...

思いのままに女の子とエッチできちゃい...!





薬はまだまだいっぱいある…

おちんちんの生やし方も  
消し方も分かった…

これで…私の思い通りに  
汚らわしい性欲を満たせる…

思う存分仲間を犯して  
快楽に溺れられる…!!



おちんちん生えちゃったら  
仕方ないですよね…

また女の子と気持ちいいこととして  
おちんちん消さないこと…

私のせいじゃない…

私は何も悪くない…!!

これは仕方ないこと  
なんだから…!!



うふ…

ふふふふ…♡

次はだれと…



少女の心



清純だ  
純

だ  
た  
ま  
ま  
の

マ  
シ  
ユ  
は  
は

堕  
ち  
る

清純だ

ふた  
な  
り  
の  
誘  
惑  
に  
堕  
ち  
る

誘  
惑

純  
粋  
な  
誘  
惑

ふた  
な  
り  
の  
誘  
惑  
に  
堕  
ち  
る

誘  
惑  
に  
堕  
ち  
る

清純だ  
た  
は  
ず  
の  
マ

堕  
ち  
る

は  
ず  
の  
マ  
シ  
ユ

## あとがき

どうも、ほしあかです。  
4作目ご購入くださりありがとうございます！

当初構想していたストーリーは、ひとまずここまでになります！  
振り返ればこの1年、この作品にかかりきりだったなあ…(´ω`)

今作は前作で出せなかったような煩惱マシマシ回になっちゃいましたね。  
キャラ崩壊は激しかったけど、とりあえず描きたいように描けた気がします。

ただ実は、前作のあとがきにも書いたのですが、  
今後のストーリーの構想も少し思い浮かんだりしています。  
(射精のシーンで出た「失ってしまった大事なもの」も何か明らかにする感じで)

しかし、ほぼ毎日描いてようやくこのペースで本誌を出せたように、  
仕事しながら同人原稿描くのは本当に大変だと身をもって知ったので、  
続きは今作の売り上げを見て検討したいと思います(なので出さないかも)  
モチベが出せるくらい売れたらいいなあ…(´ω`)

続きについてはさておいても、こうして当初構想していた  
作品をここまで完成させることができたのは、私の作品を  
お買い上げいただいた皆さんのお陰です！  
応援や良い感想をいただけたのも、とっても励みになりました！  
どうもありがとうございます！！

かなり労力使ったので、しばらく落書きでもしようかなと思いますが、  
また次回作を出したらぜひぜひよろしくお願ひします—m(\_ \_)m

重ねまして、本誌をお買い上げ&お読みいただき  
ありがとうございました！

無断転載・複製・インターネットへの  
アップロードなどはお遠慮ください。

サークル さだるすうど  
著者 ほしあか  
twitter @StarLightCool



□ (x|x|x|x) No. 44 □